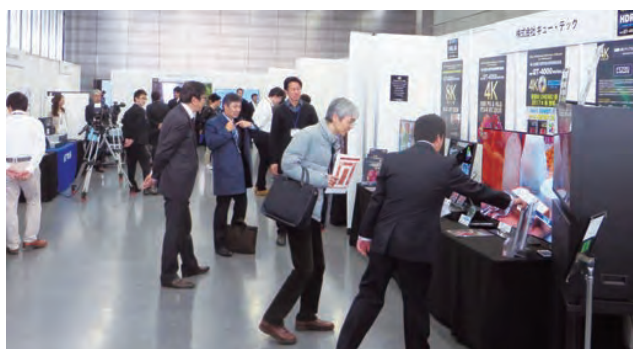


# A-PABが2日間の「4K制作ワークショップ」を開催

2日間で500人を超えて集まった会場



## 民放ローカル局など500人が参加 「4K制作のノウハウを学べ」



1月26日、27日の2日間にわたって

一般社団法人放送サービス高度化推進協会 (A-PAB) が「4K制作者のためのワークショップ」を都内で開催した。4K制作や機器を導入した先駆的な放送局が講師に立ち、現場の制作者やエンジニアたちが集まった。

(レポート・写真:吉井 勇・本誌編集部)

4K関連の機器展示フロア

### 会場には500人を超える参加者 「目からウロコ」の刺激

このワークショップ開催は正鵠を得ていた。4K制作の迷いと焦りが高まりつつあるタイミングに開き、しかも全国から集まりやすいように2日間、同じ講師で同じ内容で行うという配慮も、好評に繋がった。各局

(フジテレビ、テレビ朝日、東海テレビ、毎日放送、関西テレビ、TBSテレビ/TBSビジョン、WOWOW) が制作した番組上映と4K/HDRのデモ上映ブース、A-PAB会員14社による4K・8K関連機器の展示と朝日放送の特別展示などで、取り組みの考えから4K制作の具体例、そして機材展示という3点セットの構成で、「4K制作のうねり

はローカルからだ!」の気運を生み出そうという意気込みを感じる会場となった。

開催にあたってA-PAB専務理事・事務局長の土屋円氏は、開催の狙いを次のように話した。

「1月24日、総務省からBS・東経110度CSによる4K・8K実用放送の業務などを行う事業者に認定証が交付されました。この